

# 平成 25 年 第 6 回 家族向け失語症講座 議事録

文責：静岡リハビリテーション病院 角田

日時：平成 25 年 12 月 15 日(日) 13 時 00 分～15 時 30 分

場所：石田 R y u メディカルトレーニングデイ (静岡市駿河区)

事務局：静岡リハビリテーション病院

募集方法：県士会 ST への呼びかけ、静岡新聞への掲載

参加者：

聴講 ご家族 18 名 失語症者 9 名

失語症者向けの活動 4 名 計 27 名

スタッフ：徳永、橋本、坂本、田呂丸、小長谷、角田、渡邊、原、水野、加藤、三輪、平野、  
学生 2 名 計 14 名

内容：失語症講義 (コミュニケーションの工夫：小長谷、自宅で行える言語訓練：徳永)  
60 分+グループ別交流会 30 分

\*座談会は 5 グループに分かれて実施。家族 4 グループ、失語症当事者 1 グループ  
グループは家族 2～3 組(5、6 人)に対し ST 2 名



## 1. 失語症者 活動

当事者活動

【スタッフ、当事者自己紹介】

【当事者のつどい】(当事者 4 名、スタッフ 3 名、学生 1 名)

<福笑い>

○グループ

当事者 2 名、当事者 1 名&学生の 2 グループに分かれて実施(当事者の 1 名は重度の麻痺・失語症があるため見学)。スタッフ 3 名は進行役と各グループ 1 名ずつサポートにつく。

○実施方法

グループのうち 1 人が目隠しをし、もう 1 人は福笑いのピースをどこに置けばよいかをなるべくことばで説明していただいた。2, 3 ピース行ったら役割を交代した。

○活動の様子

最初は遠慮がちでことばが出なかったが、次第に「こっち、こっち!」「上上上!もうちよい右」等ことばが出てきて、盛り上がる事ができた。最後にお互いのグループが作った福笑いを見せあい、当事者より「そっち(相手グループ)の方が上手だ!すごいなあ」等の感想が聞かれた。

<折り句>

○実施方法

当事者4名と学生にそれぞれ季語の単語が書かれた紙を配布。俳句のDVDを見て、提示された俳句に合う季語が自分の持っている紙に書かれたものであるかどうかを判断していただいた。また、次に課題に使用した5つの俳句の、上の句・中句・下の句をばらばらにし、それを繋ぎ合わせ、新しく出来た俳句がよいものか感想を言っていただいた。

### ○活動の様子

当事者より自発的に「自分のものかもしれない」、「これは違うなあ」などの発言が聞かれた。新しく出来た俳句についての評価も、「ちょっと違う」、「これならいい」等の感想や他の当事者が言った感想に対しての同意のうなずき等がみられた。

## 2. 座談会

### Aグループ

ST 各家族の失語症の方の状態を聞く

- ・主人が失語。発症から9か月経過。現在、外来に週3回通っている。
- ・主人が脳内出血により失語。発症から3年経過。リハビリ病院に行ってから、気管切開となり、しゃべれない。現在は、○×により、応答がなんとか可能。現在は、通所を利用
- ・母親が22～23年前に脳梗塞で失語。最近、言っていることと伝えたいことが違うことが増えた。

ST それぞれの悩んでいることを聞く

- ・言語面では、漢字は読めるものはあるが、平仮名・片仮名が読めない。

⇒聞いても違うことがあるか。

- ・寒いを暑い、座るを立つ、と反対のことばを言う。

⇒反対の言葉を言っている自覚はあるのか

- ・ない。最近、しゃべることが増えた。

- ・全然しゃべれない。現在、家庭でしゃべる練習を「あいうえお」を行っている。「ありがとう」という言葉を初めに覚えたので、「ありがとう」と言ってしまうことがある。最近では、間違えるところはあるが「ふるさと」が歌えるようになったことが嬉しい。

気管切開をしたため、言語のリハビリが出来るところに通えない。今後、どうやって練習をしていけばいいかわからない。

⇒ご主人が伝えるときはどうしているか。

- ・察することが多い。「おーい」や机を叩いて呼ぶことが出来るようになった。

⇒言葉に頼りすぎると大変なので、良いことだと思う。

- ・今、旅行をすることを目標に毎日生活している。人生楽しませること中心。

⇒外に出ることは良いことですね。

重度な方でも、自然に振れることで「あー気持ちいい」とか、ひよっとしたことで言葉が出る。その言葉と同じ言葉を掛けて伝わっていることを伝えることもリハビリになる。

- ・今まで、言えていたことが伝わりにくくなった。ストレスがたまっていて泣いてしまうことがある。何が起ったか分からず、家族が理解してあげられない。

⇒今は、一人暮らしですか。

・一人暮らし。適当な返事をしたり、したとってしまう。言葉を選択したりさせることはしている。上手く伝えられなくなったのは、失語症十年のこともあるかも知れない。  
困っていることはあまりない。今後、何があるか心配・不安。

・言語のリハビリが火・水・木曜日で、金～月では、言葉が出にくくなる。

⇒午前中は、言葉が出にくい人が多い。

・家では、勉強しなくて困っている

⇒家での勉強、やりたくない人多い。家でのやりとりを工夫すると良い。何をやる？何を食べる？と具体的な質問は難しい。どっちにすると聞いて、答えてもらい、繰り返してもらおう。会話の中で、訓練ばくなくするといひ。

・家からでることが少ない。

・グランドゴルフとかに行く。

・計算はどうするのか

・出来る人がやっていると思う。他には、カルチャーセンターの障害者向けペン習字に行っている。

・送迎はあるのか？

・ある。一度、住んでいるところの役所に問合せで見ればどうか。

<場の雰囲気>

・各家族で発症年月がバラバラなため、家族同士で悩みを相談する場面があった。

<交流会後の感想>

・色々な家族の話が聞いて参考になった。

・今後もこのような機会があれば、聞いてみたい

## **Bグループ**

・良くなっている実感がないためか訓練に行きたくないと訴えることがある。

⇒訓練内容によっては、バカにされていると思われてしまうこともある。目に見える結果が出にくいため実感はしにくい。言語検査の結果を見せて貰うと変化がわかる。

・(S Tから)言葉が出て来なく伝えられない時はどうしますか？

⇒(家族より)

言いたい事は何となく分かるので、言葉が出るまで待つ、あまり深く追求しないようにしている。

・(S Tから)書いて伝える際に工夫していることは？

⇒(家族より)

前日に時間単位でのスケジュールを書いて伝える。単語レベルで提示して、ジェスチャー等も加えている。

・家での訓練は行ったほうが良い？どんな訓練をしたほうが良い？

⇒家での訓練は嫌がる人もいるため担当S Tに相談して決めることを進める。患者様の重症度や症状により違うため担当S Tと決めることが望ましい。

・「帰ったら足の爪を切りましょう」と言い外出、帰宅後あらゆる切る道具(ハサミ、裁縫ハサミ、ニッパなど)が出ていた。

⇒道具の選択を迷う、使い方がわからなくなる人もいるため、外出前に爪切りを提示して置いておくと良い。

・伝わった時は喜んだほうが良い？

⇒伝わった経験を増やしていき、日常での発話も増やしていくと良い。

### <交流会終了後の感想>

家族だけでなく社会全体の理解が増えてくると良い。同じ症状を持った人の家族でないとわからないこともあるため、一人でないことが実感できた。

### Cグループ

- ・訪問 ST もあるのか
  - ⇒山の上病院で訪問があるが、訪問 ST はまだ始めていない。甲賀病院での訪問 ST は今までに1回のみ。訪問 ST の数が少ないこと、あっても遠いのが現状。担当のケアマネさんに紹介してもらうのはどうか。また、外来リハが可能な施設のリストがある為、参考に見てみたらどうか。
- ・デイケアに週2回通っているが、本当はもっと通いたい
  - ⇒失語症友の会の紹介(いちごの会、みのりの会、焼津市立病院は入院患者が対象)
- ・筆談は出来るが、口を全く動かさず、声を出さない。何をしたいか分からない。
  - ⇒・訪問で来ているセラピストがどんなコミュニケーションの取り方をしているかを見るのも一つではないか。
    - ・筆談である程度コミュニケーションがとれているので、その上で本人の趣味、楽しみを広げるようにしてみるかどうか。
- ・退院して家にいたら、歩行能力など、状態が悪くなったような気がする
  - ⇒(他のご家族より)
    - 色々なサービスがあるので、どういうサービスが使えるのかをケアマネさんに紹介してもらった方が良い
- ・デイサービスや訪問リハビリがない日はどのように過ごしているか
  - ⇒(他のご家族より)
    - ・とりあえず、外に連れ出して歩くようにしている
    - ・本人の見たいテレビ番組を新聞のテレビ欄で探してもらうようにしている
- ・入院中と比べれば、随分と進歩したと思うが、もう少し言語が良くなれば…手だてがないかなと思う。でも声が聞けるようになったことが嬉しい。マイナスに考えるのはやめて、こんな事も出来るようになったんだと考えるように気持ちを切り替えた。

### <交流会終了後の感想>

参加者の人の話を聞いたり、失語症の講義を受けて気持ちが楽になった。前回の講座(7月開催)で知り合った方と今でも連絡を取っている。この機会にまた交流を広げて一緒に頑張っていければと思う。

### Dグループ

ST：在宅で困っている事や今日の講義の中での質問等ありますか。

- ・理解はしていそうだけど、言いたいことは別になってしまう。発症当初は言葉が出にくい様子があったが、現在は職業復帰ができた。今は仕事終わりに甲賀病院に通っている。とても楽しみに通っている。週1でもゆっくり話す相手がいると安心しているようだ。
- ・ST は患者さんの意図や様子をくみ取りながら時間をかけて話してくれるから夫も週1回デイを楽しみにしている。リハビリの回数は少ないけれど、以前よりイキイキしている。刺激になっている。発症当初は自分も失

語症の症状やコミュニケーションのとり方がわからず戦いだっただ。

- ・役員や車の運転をやめて、外への活動がなくなってから言葉が減り、話さなくなりました。どうしたらよいか。病院に行ってレントゲンを撮ったが異常ないといわれた。自ら話さないため、あきらめてしまい会話を待たずに終わってしまったり、勝手に解釈してしまう。
- ・待つのが大事。待つことを楽しむ。歌ったりするのもよい。歌はとでもよい。一緒に歌ったりしていた。童謡や歌謡曲を本人のペースに合わせて歌った。言葉がでてくるとこちらもうれしくなる。
- ・ディで看護師をしており、男性とのかかわり方は難しいと思う。
- ・うちのお父さんの場合簡単なことはやりたくない。トランプやパズルを買ってきて家族とやっている。また、歌声喫茶をととても楽しみにしている。ラジオ体操にも行っている。
- ・本人のペースに合わせるのが良い。強制はよくない。会話を真面目にするのは難しいため、他のことで楽しみを作るのが良い。今は単語レベルでも言葉がでてくるのがとても楽しい。
- ・お父さんはうるさい、やかましいといった言葉しか言えないが、ディを休む時は「今日は休みます」といった言葉がでてくる。プライドが高く、ディはあまり行きたがらない。自分はディの看護師で嚥下体操以外でみんなのでやれる言語訓練はあるか。  
⇒連想ゲームや脳トレなどはよいかもしれない。
- ・ドリルなども効果はあるか。  
⇒重症度にもよるので何でもよいというわけではない。
- ・天声人語をかくように勧められた。
- ・子供のゲームなんかもよいと言われてやっている。

<交流会終了後の感想>

いろんな方の話が聞けてとてもよかった。とくに復職された方の話を聞けて励みになった。またこのような家族同士で集まる機会があったら参加したいと思う。

## 失語症グループ

【当事者の座談会】(当事者9名、スタッフ4名、学生1名)

ST がサポートしながら、当事者同士で自己紹介やお住みの地域について、趣味や現在行っているリハビリの有無・内容などを話し合った。当事者からの積極的な意見は聞かれず、一人一人 ST が話題を振っていた。他者が話している際には、相づちや感嘆の声があった。当事者より「ことばが出なくて困っている」との意見が聞かれ、ST より「〇〇さんはジェスチャーで上手に伝えてくれますよ。」と声掛けがあった。途中、涙ぐまれる当事者もいらっしやっただ。

## 2. スタッフの感想・反省点

- ・講義と失語症活動を行う場所の距離が近かったため、聞き取りにくそうであった。
- ・失語症講座を知らない人が多かった。6回もやっていたの?という声があった。
- ・焼津・藤枝などSTが少ないところでの広報を考えていく必要がある。
- ・今回参加した家族の方に次回の講座開催も案内していくのはどうか。
- ・写真の可否は電話で事前に確認したほうが良かった。
- ・当事者様は全員活動に参加して頂いても良いのではないか。
- ・ディスカッションの時間を増やす、講座時間を少なくするのはどうか。
- ・会場展示の失語症ドリル集へ興味を持つ方が多かった。